



～みんなの努力が実を結びました～

## 一人あたりのごみ排出量が23区最少に！！

杉並区は、平成25年度の「区民一人1日あたりのごみ排出量」が、東京23区の中で最少となりました（9日、東京23区清掃一部事務組合発表）。ごみの減量や分別を徹底するための区の継続的な普及啓発活動と、区民や区内事業者の意識が着実に向上し、行動に現れたことへの成果と言えます。

家庭から排出されるごみは、清掃工場等に運搬され、焼却処理をした後、焼却灰は東京湾の最終処分場に埋め立てられます。現在使用している埋立処分場は、東京湾に設置することができる最後の埋立処分場であり、あと50年ほどで満杯になるといわれています。残された貴重な処分場を少しでも長く使用するために、ごみの減量は喫緊の課題です。

区は、循環型社会の形成のためには、行政主体ではなく、区民や事業者と区が協力・連携し、それぞれが責任を持って、自主的にごみの減量と資源化に向けた取組を行っていく必要があると考えています。

区では、これまで、ごみの減量や分別の徹底について、町会や自治会を対象とした清掃懇談会や環境学習などを開催したり、「ごみ・資源の収集カレンダー」を毎年作成し、区内全世帯に配布するなど、継続的に普及啓発活動を行ってきました。また、集団回収促進の周知や実施団体に対する支援を行うなど、ごみの資源化のための取組にも力を入れています。

さらに、平成24年度には家庭ごみ全体の約37パーセントを生ごみが占めていることに着目し、「生ごみギュッとひとしぼりプロジェクト」を展開。平成25年度には、環境問題に関心の薄い単身の若年層をターゲットに、スマートフォン用アプリケーションを開発し、分別方法の周知を図ったり、粗大ごみからの金属回収を開始したりするなど、次々に新たな取組にも着手しています。

こうした取組が実を結び、ごみの減量・資源化に対する区民の意識は徐々に高まり、年々、ごみ量が減少するとともに資源回収率は向上しています。平成20年度に565グラムだった区民一人1日あたりのごみ排出量は、平成25年度には515グラムにまで減りました。24年度も東京23区でトップクラスでしたが、25年度は2位を4グラム引き離して、ごみ量最少の単独1位を獲得しました。（平成25年度23区平均は568グラム）。

区では、これからも、新たな取組にチャレンジしていくとともに、集団回収や環境学習など既存の取組を一層充実させ、「区民が主体となりごみの減量化に向けて着実に取り組んでいける地域社会の実現」を目指していきます。

